

平成21年度

事業報告書

社会福祉法人 尾鷲市社会福祉協議会

目 次

目次・事業総括	1～2
I、 企画調整部門	
1、 総務係	3～7
2、 地域福祉係	8～15
II、 総合相談・支援部門	
1、 尾鷲市地域包括支援センター	16～21
2、 紀北障がい者総合相談支援センター	22～29
III、 介護サービス部門	
1、 居宅介護支援事業所	30～31
2、 訪問介護事業所	32～34
3、 訪問入浴事業所	35
4、 尾鷲社協デイサービスいきいき	36～38
5、 通所介護事業所	39～40
IV、 輪内高齢者サービスセンター	41

平成 21 年度 事業総括

景気の減退や介護保険事業の厳しい状況の中で、本会の運営や事業は大きな影響を受けていますが、関係機関・団体との連携を強化し、地域福祉推進のため事業計画に基づいた事業を積極的に実施しました。

地域福祉係は、近年の共同募金運動に対する地域住民への働きかけや、今後のあり方について見直していくための第1歩として、募金運動に協力いただく自治会を対象としたアンケートを実施し、多世代間の交流事業など次年度への要望を受けるとともに、今後への課題を見出すことができました。また、新たに団体との共催で募金イベントを開催しており、さまざまな形で募金運動の強化を図ることは、今後も財源確保のために必要な活動であることを再認識しました。

地域活動の新規事業ではおおむねシニア世代を対象に、ふれあいサロン事業の一環として、福祉保健センター、九鬼公民館、早田公民館を活用し、おしゃべりほのぼのサロンをスタートさせ、一人暮らしの寂しさを軽減・楽しみづくりの場を増やすことにつなげました。

防災対策として、尾鷲市ボランティア連絡協議会主催の災害ボランティアコーディネーター養成講座に職員5人が参加、また県看護協会の尾鷲地区支部委員に委嘱され研修活動を行うなど、体制を備えています。

特に21年度は避難勧告が2回発令され、介護事業所、包括支援センターでは危険のおそれのある利用者に、早めの避難を促したりするなどの連絡をつけるとともに、避難所を開設し職員体制を取りました。

地域包括支援センターは、新たにケアプラン作成者の人材が増えたことにより社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャーの専門性を充実させました。介護事業所や医療機関の関係マップを作成し、関係機関に配布して、より利用しやすい環境を作りました。

昨年に引き続き、『認知症サポート100万人キャラバン』のキャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を尾鷲市と共催し、市民への周知・啓発活動を行いました。

紀北地域障がい者総合相談支援センターは、障がい者が安心して就労できるために雇用主と障がい者の間にたって支援できる体制の強化をしました。また、就労支援施設『やきやまふぁーむ』の立ち上げに協力したり、ゴールド人材センターとの連携を図ったりしました。

介護保険事業においては、職員の体制の充実、介護福祉士取得職員の割合の向上や専門職の配置、職員研修の充実などにより特定事業所加算やサービス提供加算等を申請し、収入の増を図りました。

また、介護職員処遇改善交付金事業も申請し、介護職員だけでなく、介護にかかわる職員全員の処遇改善に努めました。しかしながら、利用者および利用回数の減少により収入の面では昨年度よりも増えていますが、赤字の解消には至っておらず今後も経営改善に努力致します。

輪内高齢者サービスセンターは、輪内地区食の自立支援事業を実施（市の配食サービスの対象とならない住民に対して）し、古江、梶賀の2地区で年間227食を配食しました。

このような中で役職員一丸となって次のような事業をおこなったので、報告いたします。

I、企画調整部門

1、総務係

1、会務の運営

社協の適正な法人運営と事業の円滑な推進を図るため、次のとおり役員会等を開催した。

(1) 理事会の開催

第1回 平成21年 5月28日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者9名

- ①平成20年度事業報告書(案)について
- ②平成20年度決算書(案)について
- ③平成21年度第1回補正予算書(案)について
- ④評議員の一部変更について

第2回 平成21年10月29日 尾鷲市福祉保健センター3階 出席者9名

- ①平成21年度第2回補正予算書(案)について
- ②評議員の一部変更について
- ③就業規則の一部変更について

第3回 平成22年 1月29日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者12名

- ①平成21年度第3回補正予算書(案)について
- ②評議員の一部変更について

第4回 平成22年 3月25日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者10名

- ①平成21年度第4回補正予算書(案)について
- ②平成21年度事業計画書(案)について
- ③平成21年度当初予算書(案)について
- ④就業規則等の一部変更について
- ⑤評議員の選任について

(2) 評議員会の開催

第1回 平成21年 5月27日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者21名

- ①平成20年度事業報告書について
- ②平成20年度決算書について
- ③平成21年度第1回補正予算書について
- ④理事の変更について

第2回 平成21年10月29日 尾鷲市福祉保健センター3階 出席者18名

- ①平成21年度第2回補正予算書(案)について

②就業規則の一部変更について

第3回 平成22年 1月29日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者21名

- ① 平成21年度第3回補正予算書（案）について
- ② 新役員について

第4回 平成22年 3月25日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者21名

- ①平成21年度第4回補正予算書（案）について
- ②平成22年度事業計画書（案）について
- ③平成22年度当初予算書（案）について
- ④就業規則等の一部変更について
- ⑤理事の選任について

(2) 監事監査

- ①平成21年5月8日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成20年度の事業及び会計の監査
- ②平成21年8月11日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成21年度4月～6月 定期会計監査
- ③平成21年11月24日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成21年度7月～9月 定期会計監査
- ④平成22年2月16日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成21年度10月～12月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ①平成22年2月12日 財政援助団体等監査
(尾鷲市監査事務局)

2、事務局体制の強化

(1) 事務局体制の強化

嘱託職員 5名登用・採用試験を行った。

(2) 職員の処遇改善

介護職員処遇改善助成金を申請することで、介護職員全員に介護事業特別手当を支給し、職員の労働条件を向上させた。

(3) 人材育成の観点から福祉関係資格取得を奨励するとともに、各種研修会へ参加させ職員の資質向上を図った。

①資格取得の状況（新規）

介護支援専門員	2名
介護福祉士	7名

②研修会への参加と開催

- ・ 県社協の実施する役職員セミナーや専門、職種別研修会に積極的に参加した。
- ・ 社会福祉従事者としての自覚、使命感を育て問題解決能力を養うための自己啓発の促進として、下記の経験や役職に応じた体系的な研修に参加した。

新任職員研修	2名
中堅職員研修	3名
指導的職員研修	1名

- ・ 当会の組織と業務内容を理解し、社協職員としての自覚と職場への適応を図ることを目的に、新任職員研修会を開催した。

（4）事務の効率化

文書処理簿、時間外勤務などのパソコン処理化
会計・給与ソフトの各事業所間のオンライン化。
公用車のリース、車検等の見直し
公用車駐車場の見直し

（5）規則等の改正を行い、活動基盤の充実に努めた。

職員就業規則の改正
嘱託職員の就業に関する規則の改正
日額・時給職員の就業に関する規則の改正
職員給与規程の改正
旅費規程の改正

3、地域福祉財源の確保

(1) 域福祉事業推進のため公的助成の確保に努めた

(2) 自主財源の確保

①善意銀行の運営

市民の善意により次のとおり、現金物品が寄贈された。

現金：	一般預託	31件	1,782,743円
	指定預託	5件	223,155円
	合計	36件	2,005,898円
	※前年度合計	45件	13,011,305円
物品：	シュレッダー、デジタルカメラ、3升ガス釜		

4、福祉団体活動支援

(1) 老人クラブ活動の推進と支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに 社会奉仕活動への 積極的な参加促進を支援した。

- ①老人クラブ連合会活動の支援 33クラブ・会員数2,131人
- ②老人の社会奉仕活動への参加促進の支援
- ③高齢者友愛訪問活動への支援
- ④尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

年 度	講 座 数	延べ参加人数
平成19年度	11講座	3,275名
平成20年度	10講座	3,219名
平成21年度	9講座	2,943名

5、苦情解決事業の推進

苦情解決体制の一層の充実を図り、第三者委員をはじめ地域住民からの苦情の汲み上げるとともに、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

①苦情解決体制の構築

- ・苦情解決責任者の設置 事務局長
- ・苦情受付担当者の設置 総務係長
- ・第三者委員の設置 4名委嘱

②苦情解決事業第三者委員会の開催（苦情報告）

日 時：平成 21年 7月 15日

場 所：尾鷲市福祉保健センター1階 ボランティア室

参加者 第三者委員 4名 事務局 2名

③苦情解決事業第三者委員研修会への参加

日 時：平成 21年 8月 27日

場 所：三重県津市 三重県障害学習センター大研修室

参加者 第三者委員 3名 担当職員 1名

④苦情件数 苦情総数（平成21年4月～平成22年3月） 2件 （平成20年度 4件）

苦情の内容	平成21年度	前年度
ケアの内容に関わる事項	1	2
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他（職員の言動・交通マナー）	1	1
本会以外への苦情等	0	1
合 計	2	4

2、地域福祉係

1、ボランティアセンター事業の実施

(1) ボランティアセンターの効果的な運営

- ①市内ボランティア団体への情報啓発
- ②団体の活動しやすい、相談支援体制やボランティア団体の環境づくり
- ③安全な活動環境の支援のため、ボランティア活動保険および一事業開催ごとの行事用保険への加入促進と保険料の一部助成（21年度：加入対応件数100件）
- ④ボランティアグループへの助成実施（21年度：1団体2万円を10団体に助成）
- ⑤尾鷲市ボランティア連絡協議会の定例会の開催支援
 - ・ボランティアまつりの開催：平成22年2月21日（日）来場者 約500名
 - ・災害ボランティア養成講座

開催日：平成22年1月16・23日、2月13・27日

講師：みえ防災市民会議 スタッフ 受講生17名

⑥福祉施設協働事業の実施

施設の夏祭り行事への参加協力 紀北作業所夕涼み会（平成21年8月21日）

(2) コーディネーターとしての技術の習得

県社協が主催するボランティアコーディネーター研修会（年5回）に出席し、コーディネーターとして知識と技能を修得した。

(3) 児童福祉教育事業の実施

市内の小学生を対象に、各種講座を通して、地域生活に大切な視点をはぐくむため、下記の行事を開催した。

平成21年 8月11日 買い物ゲームでエコを学ぼう 13名参加

平成21年 8月24日 竹ようかんづくり 17名参加

平成21年10月24日 ハイゼックスを学ぼう 11名参加

(4) データベース化事業への協力

県NPOの呼びかけにより、2年前から尾鷲県民センターや尾鷲市と取り組んでいる、市内のボランティア団体の現状把握とデータの更新作業を継続的に取り組んでおり、市民にわかりやすい情報整理につとめた。

2、福祉協力校援助事業の実施

- (1) 福祉協力校<小学校：8校、中学校：2校、高校：1校>に対する、福祉教育の活動への助成
(21年度：1校5万円 11校に助成)
- (2) 福祉協力校活動の推進・支援および福祉教育の相談、援助
- ・体験教室の開催
車椅子体験、高齢者疑似体験、視覚障がい者体験、点字体験、職場体験、福祉保健センター見学 他
 - ・その他の福祉協力校活動の推進・支援
各種福祉関係行事への参加・募金や収集活動・清掃や地域の高齢者との交流など、具体的な取り組みに対する調整と助言

3、共同募金運動の推進

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者の協力を得て、募金運動を推進した。

- (1) 赤い羽根一般募金運動（強化月間：平成21年10月1日から2カ月間）
(募金実績)

	平成21年度	前年度	前年比較
目標額	3,323,831	3,282,190	101%
実績額	3,621,772	3,480,000	104%
達成率	109%	106%	

(募金種別による内訳)

	平成21年度		前年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別募金	2,422,561	4,985	2,577,184	5,357	△154,623	△372
法人募金	796,500	126	787,700	121	8,800	5
街頭募金	46,997	1	42,764	1	4,233	0
職域募金	91,544	8	54,000	1	37,544	7
イベント募金	182,183	5		0	182,183	5
募金箱 (設置箇所数)	81,987 (13)	6	18,352 (12)	2	63,635	4
合計	3,621,772	5,131	3,480,000	5,482	141,772	△351

(2) 活動強化のための企画の実施

- ① 共同募金運動発展モデル推進事業（県共募から10万円助成あり）として、任意団体KODOMOとの共催で、赤い羽根イベントを開催した
(平成21年11月15日矢浜公園にて)
- ② 共同募金の現状把握アンケートの実施
アンケート対象 : 90自治会
アンケート回収数 : 51自治会 (回収率56.6%)

4、社協会員制度の推進

理事・評議員、民生委員児童委員、地区福祉委員、社協協力員などとの連携により、社協活動への参加・協力を呼びかけ、会員の確保に努めた。

(21年度実績)

賛助会員	1,568名	<小計1,714,000円>	(前年度1,563名)
特別会員	59名	<小計 400,000円>	(前年度 59名)
団体等	1団体	<小計 20,000円>	(前年度 1団体)
合計		2,134,000円	

5、地域福祉事業の実施

(1) 地区福祉委員会の活動支援

①地区福祉委員会座談会の開催

目的：地区福祉委員会と社協との信頼関係の再構築と、各種支援の見直しのため、座談会を通して、現場の活動状況の行った。

成果：13地区の委員会に訪問し、現状の活動状況の確認・今後の活動について、社協に対する要望を聴取。

②地区福祉委員会連絡会の開催

目的：小地域での住民同士の関係の大切さを再確認しながら、福祉委員同士の交流の意味を目的として開催した。

日時：平成22年2月10日 参加者：37名出席

内容：前半：事業助成金申請について ほか

後半：レクリエーション研修

「レクリエーションを学んで、ふれあいサロンに活用しよう」

講師：梅本 みち代 氏

③活動助成金の交付

- ・前年度賛助会費から（社協会費50%）の助成
- ・基本助成（2万円）および下記の各活動に伴う助成金交付

④各種地域活動の状況

・高齢者ふれあいサロン事業

地域の公民館や集会所を利用した閉じこもり予防、仲間作り活動を目的とした活動

・あったかふれあい訪問サービス

地区に住む高齢者や障がい者などに対し、訪問活動を通して住民同士の横のつながりを大切にする活動。

各活動の状況は下記のとおりです。

委員会名	ふれあいサロン活動		あったか訪問活動	
	回数	のべ人数	回数	のべ人数
泉地区福祉委員会	1	28	2	68
梶賀地区福祉委員会	2	82	5	210
賀田地区福祉委員会	・・・	・・・	2	165
九鬼地区福祉委員会	2	98	1	177
倉ノ谷地区福祉委員会	2	55	2	182
須賀利地区福祉委員会	・・・	・・・	3	215
曾根地区福祉委員会	1	57	4	238
中村町地区福祉委員会	2	60	3	210
野地町地区福祉委員会	2	62	2	89
早田地区福祉委員会	3	107	2	132
古江地区福祉委員会	2	30	3	360
三木浦地区福祉委員会	1	10	3	440
三木里地区福祉委員会	1	65	3	258
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	11	392	2	124
矢浜地区福祉委員会	・・・	・・・	2	329
坂場地区福祉委員会	・・・	・・・	4	233
新田地区福祉委員会	・・・	・・・	5	354
北浦・馬瀬地区	・・・	・・・	1	60
中井町	・・・	・・・	1	41
平成21年度の合計	12地区30回1,046名		19地区50回3,885名	
前年度の合計	13地区38回1,393名		18地区42回3,338名	

(2) 地区懇談会の開催

地区福祉委員会のない町において、地域と社協とのつながりを深めていくとともに、地域の現状を聞き、今後の地域課題を見つけるために開催した。

『栄町地区懇談会』

日 時：平成21年10月14日（水）

参加者：民生委員1名、老人クラブ会長1名、社協協力員2名、自治会長3名

内 容：社会福祉協議会の概要（社協とは）

日頃の生活を通して感じること

(3) 県外からの視察研修（長野県原村民生児童委員協議会施設研修）の受け入れ

日 時：平成21年10月27日（火）

参加者：21名

内 容：当社協の事業概要説明

- ・尾鷲市の地域福祉事業の現状
- ・民生委員児童委員と社協事業のかかわりについて

(4) 地域交流事業（地域研修会：シニア事業）の実施（三重県社協共催事業）

地域のシニア世代（60歳以上）の方々に対して、いきいきと生活できるように、健康づくりに着目して、研修会を行った。

日 時：平成22年2月16日（火）

参加者：18名

内 容：「レクリエーションで、いきいきライフをおくろう！」

講師：梅本 みち代 氏

6、各種大会の開催

(1) 尾鷲市戦没者追悼式の共催

尾鷲市と共催して次のとおり開催した。

日時：平成21年6月7日（日）

場所：尾鷲市市民文化会館せぎやまホール 参加者数：約250名

(2) 第21回尾鷲市社会福祉大会の開催

尾鷲市と共催して次のとおり開催し、社協事業功労者、団体表彰および社協協力団体の実践発表を実施。

日時：平成21年11月14日（土）

場所：尾鷲市中央公民館3階講堂 参加者数：約150名

〔第一部：顕彰〕

・尾鷲市長表彰

社会福祉施設・社会福祉団体功労者	4名
社会福祉活動優良地区および団体	2団体
社会福祉事業協助者	0名

・尾鷲市社会福祉協議会長表彰

社会福祉施設・社会福祉団体功労者	7名
社会福祉活動優良地区および団体	1団体
社会福祉事業協助者	1名

〔第二部：公演〕

- ・実践発表「民生委員活動を通して思うこと」民生委員児童委員 大川 勝由氏
「僕の生きる道」ボランティア 谷口 勝章氏
- ・演奏披露「尾鷲節」ほか 三木浦子ども太鼓 様

7、総合相談の維持

- (1) 一般相談 各部門担当による、常時相談、電話相談、訪問相談
- (2) 専門相談 法律相談（弁護士による）：毎月第3水曜に実施（年間相談件数37件）
結婚相談：毎月第1・第3土曜に実施（件数は市福祉保健課にて管理）
※高齢者・障がい者相談＝各相談センターにて実施集計

8、貸付事業（自立更生のための貸付事業）

- (1) 生活福祉資金（三重県社会福祉協議会）の貸付状況（3月末）
 - ①教育支援費 15件
 - ②福祉資金（障がい者自動車購入費） 2件（障がい者住宅改修費） 1件
 - ③総合支援資金（生活支援費） 1件※21年度での完済数 5件（内訳：教育支援費4件、自動車購入費1件）
- (2) 福祉金庫の貸付と自立更生指導
緊急貸付 5件（前年度7件）

9、福祉団体活動支援

- (1) 当事業者組織である、身体障がい者互助会の活動支援を行った。
- (2) 戦没者遺族援護対策の推進のため、遺族会の活動支援を行った。

10、尾鷲市福祉保健センターの利用促進と効果的な運営

福祉・保健活動の総合拠点施設として、研修や交流、健康づくり、市民の社会参加の場として、市民が利用しやすい環境を整備し、センターの管理運営を適正に行った。

尾鷲市福祉保健センター利用実績表

月	開催回数	参加人数
4月	154	3,446
5月	155	4,353
6月	163	2,829
7月	177	4,611
8月	171	4,788
9月	181	4,202
10月	181	3,188
11月	165	2,876
12月	155	2,657
1月	149	3,014
2月	177	4,464
3月	201	4,169
合計	2,029	44,591
前年度	2,246	47,181

1.1、日本赤十字事業への協力

自治会・奉仕団（婦人会ほか）などの協力で、次のように赤十字運動を推進した。

(1) 募金運動の推進 平成21年5月1日から5月31日までの1ヶ月間実施

	目標金額（円）	実績金額（円）	達成率
平成21年度	3,255,000	2,775,000	85.3%
前年度	3,336,000	2,809,400	84.2%
昨年対比	-81,000	-34,400	7.0%

(2) 赤十字救急法の開催 平成21年7月18日・19日・25日

受講生：13名

(3) 災害用天幕配備式・研修会

日赤三重県支部から、地域での防災計画への位置づけを図り、地域に密着した防災活動が展開する目的で、地域奉仕団である尾鷲市連合婦人会が目録を受け取り、当社協にて保管することになった。

平成22年3月10日（水） 尾鷲市連合婦人会 約50名参加

内容：①天幕配備式

②訓練：ハイゼックスによる非常食の炊き出し訓練

③研修会：「赤十字の成り立ち」について

1 2、その他の事業

(1) 児童福祉事業の推進

保育園・幼稚園児に対する子供の日菓子の贈呈 552名（前年度494名）

(2) 母子福祉事業の推進

母子父子家庭小学校卒業生に対する激励 37名（前年度 43名）

(3) 広報啓発活動の実施（市広報誌や新聞を通じた広報活動）

社協だよりの発行（年4回、各12,000部）

(4) 福祉学生の育成支援

社会福祉士学生の社会福祉現場実習の受け入れ 4名

1 3、福祉用具等貸出事業の実施

緊急的・短期的な対応として車椅子を貸与した。 相談件数30件（前年度30件）

1 4、地域福祉権利擁護事業の受託実施

紀北地域権利擁護センターを設置して、10年近く経ち、市内の関係機関からの相談を中心に、市外医療機関等からの相談も加わるなどし、事業の必要性を常に感じながら、必要な利用者との信頼関係の構築と、適切な金銭管理、書類預かりサービスを実施してきた。

①平成21年度実績（平成21年4月～平成22年3月）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合 計	前年度
相談件数	131	50	33	44	258	311
新規契約	1	4	0	1	6	3
解約件数	7	1	1	0	9	10

②実利用者人数（平成22年3月31日現在）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
契約件数	6	13	6	7	32	35

Ⅱ、総合相談・支援部門

1、地域包括支援センター

1、包括的支援事業

尾鷲市の高齢者が住み慣れた地域で、健康で生きがいのある生活を維持できることを目指して、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な支援を行なった。

(1) 総合相談支援業務

イ、総合相談窓口の設置

相談内容に応じたサービスや制度の利用支援・情報提供及び関係機関等の紹介を行なった。

相談件数：平成21年度 315件 前年度 234件（相談内容区分は重複あり）

	介護・日常生活等	サービス利用等	医療に関する内容	所得等に関する	その他	苦情等	権利擁護に関する	合計
実人数	207	84	7	15	5	5	11	334
延人数	234	90	7	16	5	7	13	372
夜間緊急	0	0	0	0	0	0	0	0

ロ、地域ケア会議の運営（3回開催）

地域ケア会議の運営（3回開催）

	開催月日	参加者	協議内容
第1回	6月11日	15名	① 福祉便利マップの原稿確認 ② 今年度の検討内容について ③ 事例検討の手法について
第2回	8月19日	13名	① 福祉マップの配布 ② 事例検討会 ～見守りをテーマに～ 「認知症で独居のケース」
第3回	11月11日	10名	① 事例検討会 ～老々介護の支援～ 「圧迫骨折によって在宅生活が困難となった透析患者のケース」 ② その他

(2) 権利擁護業務

イ、高齢者虐待の防止

虐待防止のための相談窓口の設置を行い、尾鷲市と連携して対応を行なった。

虐待件数 平成21年度 7件 前年度 9件

ロ、制度の活用

必要に応じて地域福祉権利擁護事業の利用支援を行った。

必要に応じて成年後見制度の活用促進、研修会の開催、申し立て支援を行った。

(3) 包括的、継続的ケアマネジメント支援

イ、医療機関との連携体制づくり

医療と福祉の連携の強化・推進を図る観点から、入院時や退院・退所時に病院等と利用者に関する情報共有等を行なう際に使用する「入院時情報提供票」の紀北管内での統一書式を作成を行なった

ロ、ケアマネジャー支援

ケアマネジメント力を高める取り組みとして居宅介護支援事業所連絡会議において事例検討及び研修会を開催した。

居宅支援事業所連絡会議 (4回開催)

	開催月日	参加者	協議内容
第1回	5月20日 紀北包括共催	33名	① 研修会 「アルツハイマー型認知症 ～実態とケア～ 講師：黒木 貴裕
第2回	7月21日	17名	① 事例検討会 (2グループに分かれての事例検討) ② 情報交換・交流会 ③ その他
第3回	平成22年 1月19日	17名	① 事例検討会 (2グループに分かれての事例検討) ② 交流会 ③ 情報交換会：同居家族がいる場合の訪問介護 (生活) 取り扱いについて

第4回	平成22年 3月9日 紀北広域連合 紀北包括 共催	尾鷲 22名	① ケアマネジメント研修会 「なぜケアプランが必要なのか？対人援助としての ケアマネジメント」
-----	---------------------------------------	-----------	---

居宅介護支援事業所のケアマネジャーが抱える困難事例等の相談支援を行なった。

件数：平成21年度 10件 前年度 30件

(4) 介護予防ケアマネジメント

介護予防事業、予防給付が効果的かつ効率的に提供されるよう、適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支援を行なった。

イ、要支援1・2の介護予防支援

予防プラン作成および給付管理数

平成21年度 合計 2,248件 前年度 合計 2,032件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
認定者数	41	46	55	51	41	42	
地域包括支援センター	128	124	127	134	125	132	
委託事業所	62	65	68	61	53	59	
合計	190	189	195	195	178	191	
	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	合計
認定者数	42	47	49	52	49	38	553
地域包括支援センター	131	130	132	130	135	138	1566
委託事業所	62	52	47	51	50	52	682
合計	193	182	179	181	185	190	2248

ロ、特定高齢者の介護予防支援

事業内容	人数	備考
通所介護予防事業（運動器・うつ・認知症・閉じこもり予防）	7	運動器7名参加
訪問型介護予防事業	1	栄養状況を確認
電話での情報提供	72	
介護保険申請支援	0	状況確認時に介護保険申請をしていた者8名 （要支援4名、要介護3名、申請中1名）
合計	80	

ハ、一般高齢者の介護予防支援

介護予防教室

	開催月日	参加人数	会場
第1回	4月8日	50	中電三田火力発電所 グラウンド

2、任意事業

(1) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神負担の軽減と介護者同士の情報の交換を目的にした交流会の開催及び介護者及び介護職員を対象に介護技術についての研修会を開催した。

介護者の会

	開催月日	参加人数	内 容
第1回	6月17日	8	① 介護おしゃべり回 ② ランチバイキング ③ 夢古道の湯で入浴
第2回	9月14日	33	① 介護方法講義・講習会
第3回	12月1日	19	① 介護おしゃべり会 ② ゆる体操
合計		60	

(2) 福祉用具・住宅改修支援事業

イ、福祉用具の利用支援

福祉用具の利用についての助言や購入支援を行った。

福祉用具購入支援者 平成21年度 12名 前年度 20名

ロ、住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成を行なった。

住宅改修利用支援 平成21年度 13名 前年度 26名

(3) 認知症高齢者見守り事業

認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法を市民に伝える講師役として
認知症を理解し認知症の人と家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターを
1人でも増やすため尾鷲市と共同で認知症サポーター養成事業を開催した。

	開催月日	参加人数	場所
1回	9月17日	15	矢の浜公民館
2回	10月15日	30	熊野古道センター
3回	11月26日	13	矢の浜公民館
4回	11月26日	28	向井公民館
5回	12月 8日	34	中央公民館（民生委員会）
合計		120	

3、その他

(1) 研修会への参加

- ・ 地域包括支援センター職員研修
- ・ 各専門職に対する研修会等

(2) 会議への参加

- ・ 地域包括支援センター運営協議会
- ・ 東紀州地域包括支援センター連絡会議
- ・ 三重県地域包括支援センター連絡会議
- ・ 運営推進会議
 - 地域密着型小規模特別養護老人ホーム：2カ所
 - 認知症対応型共同生活介護：4カ所
- ・ 養護老人ホーム入所判定委員会

(3) 定例ミーティングの実施（包括支援センター内での打ち合わせ）

- ・ 新規相談ケースについての検討会を実施した。
- ・ 各自担当ケースについての報告・相談を行った。
- ・ 各事業の進捗状況の確認及び調整を行った。

(4)、困難事例等の検討会議（カンファレンス）の開催、、行政機関との担当者会議

- ・ 処遇困難ケースの検討会議（カンファレンス）を行なった。
- ・ 虐待通報のあったケースの検討会議（カンファレンス）を行なった。

2、紀北地域障がい者総合相談支援センター

I. 紀北圏域障がい者地域生活相談支援事業

1. 相談支援事業

センター活動をスタートして2年半から3年半のこの一年間は、活動を整理し、レベルアップする期間であった。三重県障がい者相談支援センターが立ち上がり、地域性の異なる各圏域の相談支援センターの調整や抱えている問題について指導が入るようになった。

その中で、紀北地域では市町と相談支援センターの連携として、市町のサービス支給が決定された後に支援センターがモニタリングするルートを作ることとなった。

紀北地域の相談支援センターとしての活動を試行錯誤しながら、課題であるケース会議の開催やケアプランの作成にも取り組んだが、まだまだ不十分であった。今後も利用者の話をよく聞き、状況把握をし、個別支援計画を立て、関係機関の方々にとっても活動しやすいような計画的な支援を行っていきたい。コーディネーターの資質の向上を図り、出張相談の実施やセンターでの外来相談では予約制も取り入れていきたいと考えている。

(1) 相談件数

① 年間相談者実数および登録者数

対象者	実人員	身体障がい	重症心身障がい(再掲)	知的障がい	精神障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	その他
障がい者	101	24	0	25	49	3	0	0
障がい児	42	4	0	9	0	27	0	2
計	143	28	0	34	49	30	0	2
昨年度増減	(+22)	(+6)		(+4)	(+8)	(+2)		(+2)
登録者数	99	16	1	23	28	29	0	2
削除数	(4)			(1)	(1)	(2)		

② 支援方法(3名相談員分・生活支援員単独分・ピアサポーター支援のべ数)

対象者	訪問	来所相談+ すまいる教室	同行	電話相談	電子メール	その他	計
今年度実績	379	240+535	63	417	1	86	1721
昨年度実績	368	300+605	48	507	0	67	1895

③ 支援内容（のべ件数）

	述べ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	288	211	77
障害者症状の理解に関する支援	171	97	74
健康・医療に関する支援	136	84	52
不安の解消・情緒安定に関する支援	291	191	100
保育・教育に関する支援	117	79	38
家族関係・人間関係に関する支援	138	84	54
家計・経済に関する支援	57	33	24
生活技術に関する支援	146	102	44
就労に関する支援	107	59	48
社会参加・余暇活動に関する支援	824	380	444
権利擁護に関する支援	19	13	6
その他	1	1	0
計	2295	1334	961

④ ケース会議・個別支援計画作成状況

対象者	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	児童(含療育計画)	重症心身障がい児・者	計
ケース会議のべ件数	8	9	9	43(37)	0	69
うちサービス調整会議	2	4	3	1(0)	0	10(0)
計画作成検討実数	3	2	4	0(18)	0	9(18)
個別支援計画作成数	1	2	3	0(37)	0	6(37)
アセスメントのみ	2	0	1	1(0)	0	4(0)
昨年度会議件数	5	5	13	7	0	30
個別支援計画作成数	2	2	3	3	0	10

※サービス調整会議とは、本人・家族およびサービスを提供する関係者がともにサービスの利用目的や回数など利用の仕方について話し合う場であり、個別支援計画を作る調整会議でもある。

(2) コミュニケーション支援

- ① 視覚障がい者 IT 講習会のフォローアップ・・・今年度は、希望がなかった
- ② 点訳依頼のコーディネーター・・・今年度は、要請がなかった。

2. 地域自立支援協議会の部会運営および実態把握・サービス開拓業務

平成21年度は、ケース会議を多く開催し、その中から困難事例を各部会で検討する計画で進めたため、部会の開催回数がやや減少した。昨年度と比較し、地域の現場での気づきや問題点を話し合うことができてきたが、地域の課題として検討していくまでにはいたらなかった。その結果を、11月27日の地域自立支援協議会にて報告した。

今年度は、記録は要点を簡潔にまとめ、議論ができるような部会運営をこころがけたいと考えていたが、部会によっては、準備不足が目立った。

県主催の研修で、部会における当事者や家族の意見を聞く仕組みづくりについて紹介され、今後紀北地域でも取り組みたいと他の圏域の状況を視察した。紀北地域での当事者や家族や一般市民を巻き込んだ地域づくりについて、検討を進めたい。

相談支援センターは部会の事務局として関係機関との情報交換を深め、日頃の支援活動での気づきをタイムリーに客観的な資料とともに提案していけるよう、活発な部会活動を今後めざしていきたい。

部 会 名	開 催 回 数	検討された地域の問題や サービス	部会の課題
身体障がい者 部会	3回	ケース検討2例実施。部会長を 決定。A J U自立の家について、 情報を集め、視察や費用につい ての検討も行った。	重度身体障がいを持つ人の望 む支援とは？地域の専門職や サービスの不足 (訪問リハビリなど)
知的障がい者 部会	5回	入所調整ケース検討2例、継続 支援ケースの情報共有実施。 地域活動支援センターの検討 「この地域に必要な社会資源とは？」	地域の問題点やサービスの検 討を当事者や家族の参加も含 め、進めていく。
精神障がい者 部会	3回 +保健 所連絡 会1回	グループホーム、日中の居場所 すずらんサロンの報告 偏見 地域移行協議会の検討	タイムリーなケース会議開催。 グループホームの設立支援
療育部会	2回 + 連絡 会議 1回	重症心身障害児(者)の相談事 業を尾鷲総合病院が受託 障がい児童の学童保育(紀北町) 関係機関の仕事・領域を知る	教育・保健・福祉の連携 当事者(家族)のニーズを把握 する
就労部会	5回	就労継続A型事業所による雇用 の増加 ジョブサポーターの活動報告 雇用主との意見交換会	就労支援体制づくり 雇用主との連携を深める 就労している人の余暇支援

3. 生活支援ワーカーの活動

紀北地域障がい者総合相談支援センターが尾鷲市にあるということで、紀北町に生活支援ワーカーを配置し、情報収集と一次相談およびサポートの役割を果たしている。また、支援センターの紹介やPRする活動、ヘルパーとの連携窓口などを担っている。今年度もコーディネーターとの同行訪問(29件)を続け、紀北町福祉担当との同行(3件)を行った。今後は個別支援計画の作成などの役割も一部担っていけると考えている。

生活支援ワーカー単独訪問	4件
精神障がい者サロン	15回
教室活動支援	17回
カンファレンス・部会等	20回
研修および準備	9回

尾鷲市においても、相談支援員の資格を持つ時給職員により、同行訪問(11件)や単独支援(5件)を行った。

4. ピアカウンセラー・ピアサポーター活動支援事業 (自主事業)

この事業は平成19年度、20年度に養成したピアカウンセラー・ピアサポーターが地域で暮らす障がい者に対して、支援活動を行うための体制づくりや助言を行うことを目的としている。さらには、社会資源の少ない紀北地域での地域生活支援の担い手として定着させることで、本人にとっては就労の機会とすることを目的としている事業である。

今年度は ①月1回程度、支援センターの準スタッフとして活動する

②紀伊長島での日中の居場所づくりとして、すずらんサロンの世話人をする。

ということに取り組んだ。

すずらんサロンは、第2・第4火曜日の午前10時から午後2時半まで、東長島公民館で実施。世話人と利用者を合わせた当事者の参加は20回で94名、平均5.2名だった。世話人は、当日の進行や参加者への気配りを行った。また、終了前に日誌を書き、次回の献立や午後の内容を決めた。

5. ゴールド人材センターの活用

障がい者の臨時的かつ短期的な就業の機会を提供することにより、障がい者の自立と社会参加を支援する目的で活動しているゴールド人材センターに登録を勧め、仕事を発注した。登録者：1名(精神障がい)、仕事の発注：8回(受診付き添い業務)

内容的には、ピアサポーターと同様の活動であった。

6. 各種教室や当事者会の活動支援

平成21年度の各種教室や当事者会を下記の通り実施した。その他の地域ボランティア等による障がい者支援活動について、情報交換や情報提供は、不十分だった。

① 元気会（視覚障害者リハビリ教室）

月2回 第2、第4金曜日の午後、尾鷲市福祉保健センターにてリハビリ教室を開催し、視覚障がい者の方々の運動を支援。イチゴ狩りや三重県視覚障がい者福祉大会（アイフェスタ熊野）などの外出行事も行った。

開催22回 のべ参加人数 81名（実人数 5名）

② 歩行訓練（社会参加事業で実施）

月1回 歩行訓練士による生活訓練が必要な視覚障害者に対して、白杖を使った歩行訓練を行う。パソコン、点字の指導もしてくれる。

開催12回 のべ参加人数 39名（実人数 4名）

③ ウィークエンドサークル

月1回 原則第4土曜日に、当事者活動を実施した。ヘルパーを利用して参加している方も多い。土日の日中活動の場として、定着している。

開催10回 のべ参加人数 218名（知的200名、身体16名、精神2名）
実人数 41名（知的 37名、身体 2名、精神2名）

④ フラワーアレンジメント教室

月1回 原則第4水曜日に、尾鷲市福祉保健センターボランティア室にて、池田比早子先生に依頼して実施。今年度から紀北作業所・分場からの送迎がなくなり、各自バスで来たり、家族と来るようになった。

開催12回 のべ参加人数 135名

⑤ 音楽教室

月1回 原則第2土曜日に、尾鷲市福祉保健センターにて、癒しの会主催で、新宮在住の音楽療法士の福田朝子先生に依頼して実施しているので、協力した。

開催12回 のべ参加人数 184名

⑥ おもちゃ図書館

月1回 第2土曜日に、障がい児等の遊び場の開放とおもちゃの貸し出しを行う。

開催12回 のべ利用人数 165名（うち障がい児45名）

⑦ その他

尾鷲市・紀北町の「障がい者スポーツ大会」くろしお学園運動会に参加した。
はあとの会活動に協力参加した。年間11回参加（のべ84名）

Ⅱ. 障がい児等療育支援事業（三重県委託事業：尾鷲市社会福祉協議会受託）

平成21年度は、昨年にひきつづき、「すまいる教室」の充実とコーディネーター活動の定着を中心に取り組んだ。風の広場は、尾鷲市（福祉保健センター）だけでなく、紀北町（加藤小児科）でも実施した。発達障がいの早期対応の取り組みとして、尾鷲市では、保健・福祉・教育の担当者からなる「チームおわせ」が保育所の巡回相談を始めたので、参加した。

すまいる教室の充実の内容としては、

- ① カンファレンスや運営会議によるスタッフの視点の統一
- ② 言語聴覚士による指導の継続
- ③ 風の広場事業による療育内容の充実
- ④ 療育連絡会議の開催による「すまいる教室」の周知と協力依頼
- ⑤ 関係機関訪問による連携の充実
- ⑥ 療育物品の活用

障がい児担当コーディネーター活動の定着の内容としては、

- ① 部会による地域生活の問題点の把握と検討
- ② くろしお学園特別支援教育コーディネーターとの連携活動
- ③ 福祉サービスの利用相談の対応
- ④ 訪問相談支援の実施と個別支援計画の作成
- ⑤ 乳健委員会への参加による支援対象児の把握
- ⑥ 草の実検診やなでしこ重心通園事業への参加とその紹介
- ⑦ 個別療育・音楽教室・絵画教室などの地域資源の活用状況の把握
- ⑧ おもちゃ図書館活動の推進

すまいる教室の参加状況

	実人数	のべ人数
尾鷲	20	324
海山	6	100
紀伊長島	6	111
計	32	535

参加者の年齢（H20年3月時点）

	人数
～2歳未満	1
2～3歳未満	4
3～4歳未満	2
4～5歳未満	5
5～6歳未満	5
6～7歳未満	3
7～10歳未満	4
10～12歳未満	8
計	32

すまいる教室参加者の障がいの状況

主に身体障害	3
主に知的障害	7
広汎性発達障害	20
その他	2

Ⅲ. 就業・生活支援事業（三重県委託事業：紀北作業所受託）

公的な知的障がい者授産施設である紀北作業所を中心に、地域の3障がいの就業・生活支援として、一般就労支援の他、資格取得や職場体験の支援等を実施している。平成21年度は、新しく設立された就労継続A型事業所への障がいの者の就労を側面的に支援した。また、ジョブサポーターと協力し、くろしお学園卒業後の就労者について、定着支援に取り組んだ。また、就労部会では、障がい者を雇用している事業所と懇談を持ち、理解を深めた。今後も紀北地域の障がい者就労の促進に努めていく。

Ⅳ. ジョブサポーター事務局運営事業（三重県委託事業：尾鷲市社会福祉協議会）

三重県が指定したジョブサポーター養成講座を修了した者が、有償ボランティアとしてジョブサポーター活動を実施することを支援し、障がい者の雇用促進、職場定着を図る。具体的には、ジョブサポーターの派遣事務、活動支援、打ち合わせ会議の開催、支払いなどを行う。今年度は、ジョブサポーターの変更にともない、1名を新たに養成した。

平成21年度のジョブサポーターの事業所等への派遣回数は7名の障がい者に対して4名のジョブサポーターがのべ80回出向いて指導や調整を行った。この地域には、就労移行支援事業所がないため、ジョブサポーターの相談範囲は広く、規定の業務以外のニーズも多く、今後の体制を考えていきたい。（市役所やくろしお学園からの要望には、事務局とは別に対応した。）

Ⅴ. 地域移行支援事業（退院促進事業）（三重県委託事業：熊野病院受託）

精神障がい者の長期入院者の中で、環境が整えば地域生活が可能である方々の地域生活への移行を支援する。紀北地域では、熊野病院オレンジが受託し、そのコーディネーターが、週に3回活動を続けている。

今年度の活動状況としては、新規登録者が2名あり、前年度からの登録者数は12名となった。その中で、退院は3名（在宅1名、共同住居2名、再入院1名）であった。現在、退院支援中が9名、地域移行および定着支援中が3名、支援修了が2名である。

活動内容としては

- ① 病院訪問支援（面談など）
- ② 外出同行支援（買い物、公共交通機関利用など）
- ③ 福祉施設等見学利用同行支援
- ④ 精神部会への参加
- ⑤ 地域移行支援協議会の開催

来年度以降の課題としては

- ① 精神部会・地域移行支援協議会の中でグループホームの設置に関する検討や日中の活動の場の確保などの検討をする
- ② 地域でのネットワークを強化し、緊急時に早期に対応できる体制を整備する。
- ③ 個別支援会議を開催し、情報・支援計画の共有をはかる。

VI. 日中一時支援事業（尾鷲市の委託事業：尾鷲市社会福祉協議会）

夏休み等の長期休暇において、家庭外での居場所が必要な障がい児に対して、日中一時支援サービスを提供する。今年度も、夏休みだけでなく、冬休みや春休みも実施した。

午後12時30分から4時30分（準備・片づけを含む）、重度障がい児童対象。
利用者の1割負担実施。（1日300円）。内容は、預かり保育。
今年度の利用者は、小学生～高校生の6名（必要に応じて、週1回～5回利用）

(5) 月別請求額

居宅介護

提供月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	218	224	225	226	222	220
決定金額	3,109,500	3,225,500	3,241,500	3,260,500	3,201,000	3,164,500

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
215	211	213	219	211	212	2,616
3,109,500	3,047,500	3,073,500	3,173,500	3,046,000	3,072,500	37,725,000

※前年度 2,674件 29,130,500円

※月遅れ請求分は含まない。

介護予防

提供月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	13	11	12	11	10	12
決定金額	63,560	45,320	49,440	45,320	41,200	49,028

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	9	9	9	10	9	126
44,908	36,668	36,668	36,668	40,788	36,668	526,236

※月遅れ請求分は含まない。

居宅サービス作成新規依頼件数は前年に比べ31件の減少となった。居宅介護支援事業は、要介護者の在宅生活を支援・継続を目的としているが、現在の介護保険制度では在宅でのサービスに制限が多い。これにより介護者の負担が増し、施設入所を前提とした契約が増えてきたことが、施設を持たない社協への新規契約が減少した要因のひとつと考えられる。また、請求（給付管理）件数は昨年対比約98%でほぼ横ばいだが、21年4月から特定事業所加算を取得したことと独居・認知症に関する加算が創設されたことで、大幅な増収となった。

2、訪問介護事業所

1、介護保険対象の居宅介護サービス事業の実施

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護

介護保険の指定訪問介護事業所として、介護や支援が必要な者を対象に、自宅にホームヘルパーが訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供して在宅での生活の支援を実施した。18年度以降、利用者の減少は続き、介護収入も前年度を下回った。

①職員体制（人数）

職 種	常 勤	非常勤	職務の内容
1. 管理者	1	0	管理業務
2. サービス提供責任者	8	0	訪問介護サービスの調整
(1) 介護福祉士	8	0	
(2) ヘルパー2級課程修了者	0	0	
3. 訪問介護員（ホームヘルパー）	8	52	訪問介護サービスの提供
(1) 介護福祉士	8	19	
(2) ヘルパー1級課程修了者	0	0	
(3) ヘルパー2級課程修了者	0	33	
4. 事務職員	1	0	

②サービス内容

- ・身体介護：食事介助、入浴介助、排泄介助、体位変換、通院介助、その他身体介護
- ・生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- ・身体介護と生活援助の組み合わせ
- ・通院等のための乗車または降車の介助

③訪問介護月別実績（月遅れ請求分は含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	155	154	154	157	150	146
決定金額	6,429,480	6,209,200	5,852,930	6,105,220	5,516,720	5,436,270

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
149	142	148	148	147	141	1,791
5,700,560	4,934,700	5,228,400	5,243,680	5,308,020	5,689,060	67,654,240

※ 前年度 請求件数 1,925 件 請求金額 75,240,650 円

④介護予防訪問介護月別実績（月遅れ請求分は含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	16	15	17	18	16	16
決定金額	264,800	234,460	273,480	283,820	246,800	248,800

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
14	13	12	12	12	11	172
199,440	185,100	172,760	172,760	188,180	163,500	2,633,900

※ 前年度 請求件数 197 件 請求金額 3,094,340 円

2、障害者自立支援事業

(1) 障害福祉サービス

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの提供では、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各事業を実施。

月別単位数（実績月）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	33	33	34	32	33	27
決定金額	590,530	574,340	713,890	655,230	566,560	619,260

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
33	25	28	32	29	28	367
776,170	653,250	870,490	842,230	699,430	788,210	8,349,590

※ 前年度 利用件数 395 件 利用金額 7,290,740 円

3、生活支援サービス「あんしん」(保険外サービス)と一般乗用旅客事業の実施

17年度から生活支援サービス「あんしん」を実施。訪問系サービスの介護保険外事業の一環として、生活支援サービス「あんしん」と18年度から一般乗用旅客事業として、ケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を実施している。

あんしん月別実績

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	18	20	18	22	21	18
決定金額	69,000	76,500	81,500	82,500	76,500	78,500

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
19	15	21	20	21	21	234
78,500	69,500	78,500	71,000	93,000	102,625	957,625

※ 前年度 請求件数260件 請求金額952,750円

運行利用料月別実績

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	136	130	136	136	127	119
決定金額	255,330	245,970	245,810	267,750	234,940	209,670

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
131	115	128	118	110	117	1503
210,930	199,170	181,490	199,790	208,110	220,290	2,679,250

※ 前年度 請求件数1,770件 請求金額3,157,890円

3、訪問入浴事業所

(1) 訪問入浴・介護予防訪問入浴

介護保険の指定訪問入浴事業所として、看護師や介護員によって、主治医の注意事項を守りながら、利用者の身体状況に応じて、安全で快適な入浴サービスを提供した。

訪問入浴介護は重度の要介護者が多いため、入院、死亡などで利用者が激減し、延べ利用人数、収入とも減少した。通所系サービスの普及など、介護サービスの多様化で入浴に対するニーズも変化しているものと思われる。

①職員体制（人数）

職 種	常 勤	非 常 勤
1. 管理者	1	0
2. 訪問介護員		
(1) 看護師	1	3
(2) 介護員	0	4
(3) 運転手	2	0
合 計	4	7

②サービス内容

- ・ 血圧等の健康チェック
- ・ 衣類着脱介助
- ・ 浴槽への移動介助
- ・ 入浴介助
- ・ その他入浴に必要な準備

③訪問入浴介護月別実績（月遅れ請求分は含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	23	25	26	25	25	22
決定金額	1,200,000	1,283,750	1,350,000	1,508,750	1,336,950	1,300,000

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
21	21	21	21	21	20	271
1,262,500	1,162,500	1,162,500	1,044,680	1,117,370	1,130,110	14,859,110

※ 前年度 利用件数 301 件 利用金額 16,453,400 円

4、尾鷲社協デイサービス いきいき

1、介護保険対象の通所介護・介護予防通所介護事業の実施

(1) 通所介護・介護予防通所介護

介護に頼らない自立した生活を目指し、運動器の機能向上、口腔機能の向上のための事業を実施。器具を使った運動、器具を使わない運動など積極的に取り組んだ。

①職員体制（人数）

職 種	常 勤	非常勤	職務の内容
管理者	1	0	管理業務
生活相談員	(3)	0	通所介護の適正な運営
看護師	0	3	看護業務
機能訓練指導員	0	1 (3)	運動機能訓練の実施
介護職員	2	1	通所介護の提供
(4) 介護福祉士	2	0	
(5) ヘルパー1級課程修了者	0	0	
(6) ヘルパー2級課程修了者	0	1	

②サービス内容

〈共通サービス〉

- ・身体介護・支援に関すること（排泄、移動など）
- ・生きがい生活支援（レクリエーションなど）
- ・送迎サービス
- ・日常生活における相談・助言

〈選択的サービス〉

- ・個別機能訓練サービス（通所介護）
- ・口腔機能向上サービス（通所介護）
- ・運動器機能向上サービス（介護予防通所介護）

③通所介護月別実績（月遅れ請求分含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	2	2	2	2	4	5
決定金額	71,090	100,690	109,670	126,820	136,590	133,880

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
5	5	5	5	5	5	47
187,350	211,620	211,660	177,590	183,280	191,720	1,841,960

前年度 利用件数 1 件 利用金額 23,400 円

④介護予防通所介護月別実績（月遅れ請求分含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	15	14	15	15	11	16
決定金額	464,850	419,360	464,850	464,850	326,390	466,840

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
16	17	17	14	19	17	186
507,340	555,080	534,950	456,860	566,560	520,320	5,748,250

※ 前年度 利用件数 146 件 利用金額 4,216,560 円

2、一般・特定高齢者介護予防事業の実施

(1) 一般高齢者介護予防事業

一般の高齢者向けのサービスを実施し、介護予防に対する普及、啓発に努めた。

(2) 特定高齢者介護予防事業

要介護状態・要支援状態にはないが、そのおそれがある特定高齢者向けのサービス。運動器の機能向上、口腔機能の向上のための事業を行った。器具を使った運動、器具を使わない運動等積極的に取り組んだ。

開催数	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
特定高齢者	4	3	5	0	0	0
一般高齢者	6	5	6	7	5	6

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
0	0	0	3	4	4	23
6	6	5	5	6	7	70

※ 前年度 特定高齢者 開催数 127 回 一般高齢者 73 回

3、体力測定会の実施

定期的に体力測定会を開催した。

実施日	行事名	参加人数
4月17日	体力測定会	46
6月24日	体力測定会	44

4、研修会への参加

開催日	研修内容	主催者
5月13日	デイサービスにおける少人数でのレクリエーションについて	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕
6月23日	通所介護におけるリスクマネジメント	県デイサービスセンター協議会
9月13日	介護現場で活かせるレクリエーション	県デイサービスセンター協議会
10月15日	福祉レクリエーション	吉田福祉基金
11月15日	デイサービスにおける認知症利用者への対応についての事例検討	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕
12月6日	生活障害から学ぶ認知症の理解と介護現場での実践～事例に基づく個別介護の工夫～	県デイサービスセンター協議会
2月14日	デイサービスでの個人情報・プライバシー保護について	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕
2月19日～21日	リハビリケア専門士養成講座	日本通所ケア研究会
3月18日	通所介護事業における質の高いデイサービス提供と効率的運営	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕

5、通所介護事業所

要支援・要介護状態となった場合でも、自立した日常生活を送ることができるよう、日常生活上の世話や機能訓練を行うとともに、引きこもり予防や社会参加および介護をしている家族の負担軽減を図るために通所介護を実施した。また、尾鷲市から一般高齢者介護予防事業の委託を受け、一般高齢者を対象に介護予防の普及啓発に努めた。

(1) 職員体制

職 種	常 勤		非常勤		職務内容等
	専任	兼任	専任	兼任	
事務所長（管理者）	0	1			管理業務
生活相談員	0	5	0	0	利用者・事業者間の調整
看護職員	0	4	0	0	看護業務
機能訓練指導員	0	4	0	0	運動機能訓練の実施
介護職員	0	3	1 2	2	通所介護の提供
栄養士	1	0	0	0	給食栄養管理
事務職員	0	0	0	1	事務全般

(2) サービス内容

(ア) 入浴サービス（特殊浴、一人浴、一般浴）

(イ) 送迎サービス

(ウ) 給食サービス

(エ) 生活指導

- ・健康チェック
- ・レクリエーション、創作活動
- ・運動器機能向上(個別機能訓練)サービス・口腔機能向上サービス

(3) 月別請求額

介護予防通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	9	9	9	11	11	10
請求金額	303,030	303,030	303,030	400,550	422,060	377,050
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	11	11	12	12	12	128
404,300	404,300	404,300	453,060	453,060	450,810	4,678,580

通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	47	50	51	52	48	46
請求金額	3,540,380	3,749,360	4,105,640	4,050,210	3,852,570	3,708,200
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
43	44	46	43	41	43	554
3,663,920	3,468,120	3,310,300	3,244,200	3,048,180	3,582,820	43,323,900

一般高齢者介護予防事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催回数	4	4	4	4	4	4
請求金額	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
延利用者数	37	38	36	40	31	35
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	4	4	4	4	4	48
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,200,000
36	37	41	37	39	34	441

※ 通所介護、介護予防通所介護に関しては、月遅れ請求分含まず。

介護予防通所介護前年度請求件数	80件	金額	3,906,940円
通所介護前年度請求件数	592件	金額	43,985,910円
一般高齢者事業前年度延べ利用人数	473人	金額	1,250,000円

三重県デイサービス協議会に加入し、各種研修に参加してサービスと職員の質の向上に努め、利用者ニーズを最優先に考えたデイサービスを要支援・要介護者を対象に提供した。通所介護は利用者、収入ともに減少したが介護予防通所介護は、利用者数、収入ともに前年度を上回り、介護保険収入では微増ではあるが、前年度を上回った。

IV 輪内高齢者サービスセンター

1、社会福祉協議会の分室

輪内地区の福祉の向上を図るため、次のような事業を行った。

(1) 高齢者サービスセンターを利用した研修

個人研修 : 0名 団体研修 : 0名

(2) 社協業務の受付窓口としての機能

募金活動を行い、より住民に近いところでも社協活動を推進した。

5月 日赤募金 10月 共同募金

相談窓口業務として年間39件の相談を受け付け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。

(3) 施設の適正な管理・運営につとめた。

2、輪内地区食の自立支援事業の実施（市補助事業）

生活支援型配食サービスとして、週3回（火、木、土）、「食事を作ることが困難な高齢者」を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	: 輪内一円（梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦）
登録者数	: 32名 下記に地区別内訳
延べ配食数	: 3,860食
事業費	: 2,346,200円
(内市補助分)	: 802,600円

地区別内訳

（梶賀2、曾根4、賀田7、古江10、三木里6、三木浦3）

3、輪内地区食の自立支援事業の実施（自主事業）

21年度から、食事を作ることが困難で、市の配食サービスの対象とならない住民に対して自主事業としての配食サービスを実施。古江、梶賀の2地区で年間227食を配食し、114,700円の事業収入があった。